



働き方が多様化する中、共同の仕事場＝コワーキングスペース（Coworkingspace）はドイツでも人気だ。通常、コワーキングスペースは共有のオフィスという意味合いが強いが、新たなかたちのコワーキングスペースとして注目されているのが、ハノーファーにある「ハーフェン」である。

2016年にオープンし、事務仕事はもちろん、木工や金属加工など手工業もできる。

「一生学ぶ」「シェアする」をテーマに、多くの人を巻き込んだ新しい形の空間となっている。

メンバーは現在845人。会費は月10ユーロ（1300～1400円）からと敷居が低い。月90ユーロ出せばコワーキングスペースをいつでも使え、会議室は毎月10時間、作業場は20時間まで利用できる。

月200ユーロを支払えば固定の机

ドイツで唯一。 文字だけでなく、手を使うコワーキングスペース

がもらえ、会議室などの使用時間も増え、郵便箱も設置できる。講演会やワークショップ、朝食会、太極拳など催しも充実している（一部有料）。

アーティストのアイディアを取り入れた内装は木が多く使われ、カフェでは地元産の食材によるサンドイッチやケーキが味わえる。

作業場にはレーザーカッターや3次元プリンターなど、3500の工具があり本格的だ。初心者向けの講習会もあり、学生から年金生活者、素人からプロまで幅広く利用されている。普通は本格的な工具の使い方を知らないし、試したくてもする場所がない。そういう人たちのニーズを汲み取ろうと始めた。

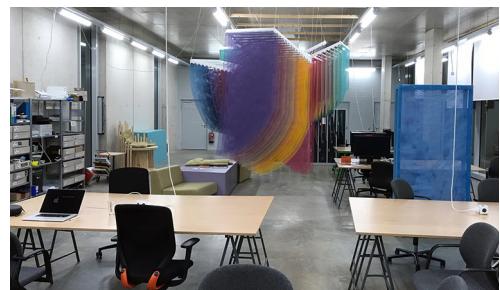
ITが進み、どこでもひとりで仕事ができるようになったからこそ、交流の場を兼ねたコワーキングスペースが必要とされる時代になっているのだろう。

田口理穂＊ドイツのエコあれこれ

No. 5



カフェのあるイベントスペース



おしゃれな仕事場

しかし、頭脳労働と肉体労働の両方ができるコワーキングスペースはドイツではここだけ。「似た者同士」ではない別のタイプの人と知り合い、切磋琢磨できる貴重な場となっている。

ハーフェンの公式サイト
<https://hafven.de>

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

AKIRA の 成長記録



先日クラスで保護者会があり、各自が子どもの様子を述べました。学校に喜んで行っているかたわら「宿題が多いから、減らしてほしい」「英語のテストが難しく、やる気をそぐ」など勉強が大変という声が多数あがりました。「英単語を覚えるには毎週テストするしかない」「宿題は1科目につき30分出してよい」という裁判の判決があり、毎日3教科だから1時間半の宿題は認められている」という人もいましたが、「うちの子はやる気をなくしているのよ！」と強硬に主張する親も。宿題が多いから減らすよう先生に頼むなんてできるのかと驚きました。

私が「明は週3回学校でのサークル、他に母国語教室のギリシャ語と日本語があるけど、文句いわずにやっている」というと「そんなにたくさん！」との声。たぶん非情な教育ママに思われているでしょう。日本に比べれば、ドイツはぜんぜんゆるいのに。日本の受験を知っていれば、こわいものは何もありません。

それにしても「シングルマザーで子どもが4人いるから、宿題をみている時間がない」「5（落第点）ばかりなので、せめて4を取ってくれればうれしい」「自分は高等教育を受けてないから勉強はわからないけど、子どもをサポートしたい」などざくばらんな発言で、和気あいあいとした雰囲気でした。みな正直だなー。